

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	日本海沿岸東北自動車道 能代～小坂 (一般国道7号 ニツ井今 泉道路)	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：秋田県能代市ニツ井町小繫 至：秋田県北秋田市坊沢			延長	5.9 km
事業概要					
<p>日本海沿岸東北自動車道は、新潟県新潟市を起点として秋田県能代市や秋田県大館市を経て青森県青森市に至る高規格道路である。</p> <p>ニツ井今泉道路は、日本海沿岸東北自動車道の一部を構成する道路として、事故減少、災害時の信頼性、救急医療支援、地域産業・物流支援、観光地域交流支援、企業立地支援を目的とした、能代市ニツ井町から北秋田市坊沢を結ぶ延長5.9 kmの自動車専用道路である。</p>					
H24年度事業化		H一年度都市計画決定		H25年度用地着手	
H26年度工事着手					
全体事業費		約543億円	事業進捗率	約73%	供用済延長
		(令和4年3月末時点)			— km
計画交通量		10,900台/日			
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)	
	1.2 (0.6)	230億円/4,878億円		313億円/5,923億円	
	(残事業)	事業費：189億円/4,103億円 維持管理費：41億円/745億円 更新費：—億円/29億円		走行時間短縮便益：254億円/4,828億円 走行経費減少便益：45億円/928億円 交通事故減少便益：14億円/168億円	
	1.4 (1.3)			基準年 ： 令和4年	
感度分析の結果					
【全体事業】交通量変動：B/C=1.1～1.4(交通量 ±10%) 【残事業】B/C=1.2～1.6(交通量 ±10%) 事業費変動：B/C=1.2～1.2(事業費 ±10%) B/C=1.3～1.5(事業費 ±10%) 事業期間変動：B/C=1.2～1.2(事業期間 ±20%) B/C=1.3～1.4(事業期間 ±20%)					
事業の効果等					
①円滑なモビリティの確保 ・能代市から大館能代空港へのアクセス向上が見込まれる(現況:50分→整備後:45分*) ②物流効率化の支援 ・小坂町から能代港へのアクセス向上が見込まれる(現況:78分→整備後:73分*) ③国土・地域ネットワークの構築 ・当該路線が新たに拠点都市である能代市～大館市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構築(現況:74分→整備後:69分*) ④個性ある地域の形成 ・主要な観光地へのアクセス向上が期待される。 (道の駅「ふたつ」957千人/R3年、世界遺産「白神山地」と関連施設307千人/R2年) ⑤災害への備え ・緊急輸送道路ネットワーク計画に位置付けがある(一般国道7号は秋田県緊急輸送道路ネットワーク計画において「第1次緊急輸送道路」に指定)。 ・緊急輸送道路が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する。 ※整備後は他の事業中区間の効果も含む 他10項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見					
○秋田県知事の意見 国の対応方針(原案)(案)については、異議ありません。 本県では、今年度から新たな県政運営の指針である「新秋田元気創造プラン」をスタートさせ、安全・安心で、快適な質の高い幹線道路ネットワークの構築に向けて、高規格道路のミッシングリンクの解消や機能強化に取り組むとともに、企業立地や観光振興につながる道路の整備を推進しております。 当該路線は、日本海沿岸自動車道の一部を構成するものであり、産業集積の促進や物流の効率化など、暮らしと地域経済を支えるストック効果の発現が期待されるほか、近年の激甚化、頻発化する災害時には、国道7号とのダブルネットワークの構築による交通機能の確保が重要であることから、早期の整備が必要であります。 特に、現道活用に課題のあった「(仮称)今泉IC～蟹沢IC間」の整備については、本事業の中で実施していただくこととなり、平常時・災害時問わず、信頼性の高い高規格道路ネットワークの構築に大きく寄与するものと考えております。					

